動物実験代替法における国際動向

小島　肇（国立医薬品食品衛生研究所）

動物実験の３R（Reduction: 実験動物の削減、Refinement: 実験動物の苦痛の軽減、Replacement:実験動物の置き換え）の世界において、日本は国際社会の中心にはいない。活動が活発な欧米から地理的にも遠く、政治的な問題に振り回され、その対応は後手後手に回っている。情報網がない訳ではないが、彼らの懐に飛び込んだものは少なく、表面的なものが多いためである。

日本の行政や研究者は、日本人の優位性である、高い試験法開発の技術や勤勉なバリデーションに取り組み姿勢に対する認識が欠けており、その優位性を生かして、世界のニーズに対応させる、世界をリードするという戦略が欠けていると感じる。日本でも動愛法の改訂が検討され始めた昨今、欧米にその起源が遡る動物実験の3R の動向について確認することは、我が国の現状を客観的にみることにつながると考える。その情報把握なしで、日本の戦略は生まれないであろう。

本発表では、動物実験の3R における EU の動向、米国における動向、国際協調機関の協力に述べた後、動物実験代替法のための国際機関および動物実験代替法に関する欧米の取り組みに関する現状を報告する。